

ビワ生育情報

千葉県
平成21年11月号

平成21年10月の気象

平成21年10月の半旬別気象は表1に示した。平均気温は第4及び第6半旬を除く全ての半旬で平年と同じか下回った。月平均気温は17.5℃で平年より0.4℃、前年より0.8℃低かった。

降水量は第1、第2及び第6半旬で平年を上回ったが、第4半旬には降雨がなかったため、月合計は222mmで平年の87%、前年の92%であった。

日照時間は第3、第4及び第6半旬で平年を上回った。月合計は149時間で平年及び前年の1.1倍であった。

表1 平成21年10月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	20.4	20.4	18.1	47	40	37	16	20	23
2	17.6	18.8	19.7	102	71	66	15	20	15
3	16.9	18.6	18.5	1	34	20	39	21	16
4	17.9	17.8	18.1	0	46	0	27	22	31
5	15.8	16.4	19.6	10	33	119	16	24	16
6	16.5	16.0	16.1	64	32	0	36	29	28
平均/計	17.5	17.9	18.3	222	254	242	149	137	130

12月の作業 (花房の発育は次ページ)

ビワの枝葉や根の活動は気温が低下するとほとんど停止するが、一方で開花が続き、幼果はわずかながら肥大している。12月は寒害防止の準備を行い、来春の苗木の植え付け準備にとりかかる。

防寒の準備

本年の花着きは3品種共に平年より著しく低かった(後述、表2)。開花は全般的に平年並みのようであり、寒害には十分気を付ける必要がある。毎年1～2月に強い寒波が襲来しているので、年内から防寒の準備を始める。

幼木の防寒法としては、こも掛けあるいは枝を結束する方法があるが、あらかじめその資材を用意しておく。成木園では園内を加温する方法があるが、火点設置場所の整備、ヒーター及び燃料の手配をしておく。

植え付け(定植)と植え穴の準備

ビワの根の伸長は3月上旬から始まるので、寒波の襲来の少なくなった2月中下旬頃が苗の植え付けの適期となる。他の果樹より定植時期が早いので、植え付け場所の整備を年内に済ませておく。改植の場合には、前作の根が残ると紋羽病の発生源になるので、根を完全に取り除く必要がある。

新植の場合の苗の植え付け距離は3～3.5mで、10a当たりの植え付け本数は80～110本とする。樹冠が広がるに従って間伐を徐々に進め、最終的な栽植距離は6～7mにして、10a当たり20～27本の永久樹を残すようにする。

台風による被害を受けた樹の管理

11月1日現在、5個の台風が日本列島に上陸または接近した。10月8日に台風18号、10月26日に台風20号が関東に接近し、最大瞬間風速はそれぞれ28.2m、20.7m(館山測候所調)を記録したが、幸いなことにビワ産地では生産に差し障りが出るような大きな被害は発生しなかった。強風によって樹が倒された場合には樹を起こし、損傷程度に応じて枝を切りつめる。

起こせない樹はそのまま栽培を続けるが、管理しやすいように枝を整理し、倒伏によって根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復を図る。このときバーク堆肥と一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。紋羽病の恐れのあるところは農作物病害虫雑草防除指針に従って防除する。

樹及び花房の発育

着花房率は表2に示した。本年の着花房率を品種別にみると、「楠」が41.8%、「大房」が47.2%、「田中」が40.3%で、3品種共に平年及び前年より著しく低かった。過去35年間の着花房率の中でみても、本年の値は、米を緊急輸入した平成5年に次いで低かった。枝別にみると中心枝には花房の着生がみられるが、副梢への着生は少なかった。また、花房の大きさが全般的に小さく、1つの花房に着生する花数が少なかった。このような着花不良は、夏期の天候不順に起因すると思われ、この時期の気温が低く経過したために、花芽分化が妨げられて、それ以降の花芽の発育が抑制されたためであると考えられる。

本年の出蕾期は「大房」を除いて平年よりやや早かったが、10月の気温が平年より低く、開花期は平年並と思われる。11月2日時点で「楠」及び「田中」の開花は始まってきたが、「大房」の開花は始まっていない。

クワゴマダラヒトリやアブラムシの発生は平年よりやや少ない。本年はカメムシのエサとなるスギ、ヒノキの球果が平年よりやや多く、今秋のカメムシ発生量は前年よりやや多いようであり、今後の発生動向に注意が必要である。樹の発育は順調である。

表2 着花房率(暖地園芸研究所)

品 種	本 年 (%)	平 年 (%)	前 年 (%)
楠	41.8	77.5	88.9
大 房	47.2	71.3	80.5
田 中	40.3	73.9	83.8

平年：1974年～2008年の35年間の平均

【生育情報の問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>